

# ～火の用心ゆかりの地～

福井県坂井市

「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」

坂井市丸岡町



この一文は戦国時代、徳川家康に仕えていた武将本多作左衛門重次（1529-1596年）が長篠の戦い（1575年）に参戦中、陣中から国元の妻に宛てた手紙文です。

要を得たこの一文は、伝えたい事のすべてが簡潔に言い尽くされている名文として今日でもよく紹介されています。



「火の用心」。この言葉は火災予防の合言葉として現在も全国的に消防関係者の間で最もよく知れ渡ったキーワード。

「火之要鎮」や「火之用心」などと言葉をもじりながら現在に至っています。

「お仙」とは、重次の長男、仙千代（後の丸岡城初代藩主・本多成重）のこと。

跡取りである幼年のお仙を大事にして、当時の大事な家畜であった馬の面倒もみてくれよ・・・。

こういった気持ちがこの一文に込められています。



国の重要文化財である丸岡城天守閣前にこの一文を記した石碑が建っています。

こういった関係から、当嶺北消防管内である坂井市丸岡町の丸岡城には、火の用心ゆかりの地ということで、全国から多数の消防関係者が観光・見学に訪れています。



この碑文をヒントに日本で一番短い手紙文を再現し、手紙文化の復権を目指そうということで、坂井市（当時丸岡町）では、平成5年から毎年テーマを定めて「一筆啓上賞」「新一筆啓上賞」として作品を募集し、日本全国、海外から応募が寄せられています。

また日本一短い手紙シリーズで表彰された短い手紙文を城の周辺に展示しています。

